

情報連絡員・関係機関 各位

高知県中小企業団体中央会
(公印省略)

情報連絡員報告総括表（令和7年2月次）の送付について

標記総括表を取りまとめましたので、ご参考までに送付いたします。

令和7年2月次情報連絡員報告のまとめ

※DIとは、「好転」と回答した企業の割合 - 「悪化」と回答した企業の割合。

DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

《調査対象：製造業 15 組合等、非製造業 19 組合等 計 34 組合等 回答率：100.0%》

【製造業】では、「売上高」(DI 値▲26.7)は6.7ポイント、「販売価格」(DI 値 6.7)が13.3ポイント前月より悪化。「取引条件」(DI 値 0.0)、「収益状況」(DI 値▲33.3)、「資金繰り」(DI 値▲6.7)、「設備操業度」(DI 値▲20.0)、「雇用人員」(DI 値 6.7)は同水準となった。「業界の景況」(DI 値▲33.3)は6.7ポイント、「在庫数量」(DI 値 6.7)は20.0ポイント前月より改善した。

【非製造業】では、「販売価格」(DI 値 31.6)は5.2ポイント、「売上高」(DI 値▲36.8)は10.5ポイント前月より悪化。「取引条件」(DI 値▲5.3)、「資金繰り」(DI 値▲15.8)、「雇用人員」(DI 値▲31.6)は同水準。「収益状況」(DI 値▲42.1)、「業界の景況」(DI 値▲36.8)は5.3ポイント、「在庫数量」(DI 値▲20.0)は10.0ポイント前月より改善した。

【全体】では、「販売価格」(DI 値 20.6)は8.8ポイント前月より悪化し、「取引条件」(DI 値▲2.9)、「資金繰り」(DI 値▲11.8)、「設備操業度」(DI 値▲20.0)、「雇用人員」(DI 値▲14.7)は同水準となった。「在庫数量」(DI 値▲4.0)は16.0ポイント改善した。

なお、主要指標については、「売上高」(DI 値▲32.4)は8.9ポイント前月より悪化し、「収益状況」(DI 値▲38.2)は3.0ポイント、「業界の景況」(DI 値▲35.3)は5.9ポイント前月より改善した。

○2月は県内各地の商店街でイベントが開催され、多くの来街者によって賑わいを見せたとの報告があった。

○多くの業種で原材料・エネルギー価格等の高騰に加え、人件費の上昇など経費負担の増加が収益を圧迫し、依然として厳しい経営環境が続いている。

○一部のサービス業からは、3月末から放送が始まるNHK連続テレビ小説「あんぱん」やインバウンド需要の高まりによる集客効果への期待の声も寄せられた。

県内各業界別の動向

＜令和7年2月＞

高知県中小企業団体中央会

1. 情報連絡員報告総括表

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況			
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	
製	食料品	1	1	0	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	1	1
	繊維工業	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	木材・木製品	0	1	2	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	2	1	0	2	1	0	2	1	0	2	1	0	1	2
	紙・紙加工品	0	2	0	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	2	0
	印刷	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
	化学ゴム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
造	窯業・土石製品	0	1	1	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1
	鉄鋼・金属工業	0	1	1	0	2	0	1	1	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0
	一般機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電気機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	輸送用機器	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	製造業その他	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
小計	1	9	5	2	12	1	1	14	0	0	15	0	0	10	5	0	14	1	0	12	3	2	12	1	0	10	5	
非製	卸売業	1	0	2	0	2	1	3	0	0	0	3	0	0	2	1	0	3	0				0	3	0	0	2	1
	小売業	1	3	0	0	3	1	1	2	1	0	4	0	0	2	2	0	4	0				0	2	2	0	4	0
	商店街	1	1	1	0	3	0	2	1	0	0	3	0	1	1	1	0	3	0				0	3	0	0	2	1
	サービス業	0	0	5				1	3	1	0	4	1	0	2	3	0	3	2				0	4	1	0	2	3
	建設業	0	1	1				1	1	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0				0	1	1	0	1	1
	運輸業	0	1	1				0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	1	1				0	0	2	0	1	1
その他	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0	0	0	
小計	3	6	10	0	8	2	8	9	2	0	18	1	1	9	9	0	16	3				0	13	6	0	12	7	
合計	4	15	15	2	20	3	9	23	2	0	33	1	1	19	14	0	30	4	0	12	3	2	25	7	0	22	12	

2. 景気動向指数（売上高、収益の状況、業界の景況）

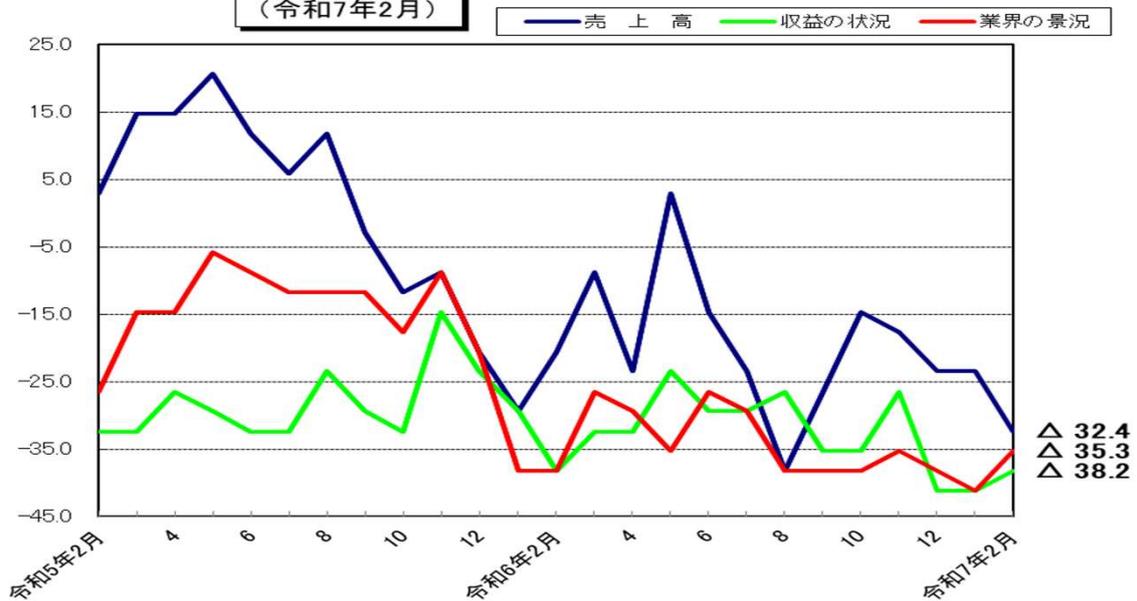
【1月分集計】

	売上高	収益の状況	業界の景況
製造業	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 40.0
	増加：2 / 15	好転：0 / 15	好転：0 / 15
	不変：8 / 15	不変：10 / 15	不変：9 / 15
	減少：5 / 15	悪化：5 / 15	悪化：6 / 15
非製造業	▲ 26.3	▲ 47.4	▲ 42.1
	増加：4 / 19	好転：1 / 19	好転：0 / 19
	不変：6 / 19	不変：8 / 19	不変：11 / 19
	減少：9 / 19	悪化：10 / 19	悪化：8 / 19
全体	▲ 23.5	▲ 41.2	▲ 41.2
	増加：6 / 34	好転：1 / 34	好転：0 / 34
	不変：14 / 34	不変：18 / 34	不変：20 / 34
	減少：14 / 34	悪化：15 / 34	悪化：14 / 34

【2月分集計】

	売上高	収益の状況	業界の景況
製造業	▲ 26.7	▲ 33.3	▲ 33.3
	増加：1 / 15	好転：0 / 15	好転：0 / 15
	不変：9 / 15	不変：10 / 15	不変：10 / 15
	減少：5 / 15	悪化：5 / 15	悪化：5 / 15
非製造業	▲ 36.8	▲ 42.1	▲ 36.8
	増加：3 / 19	好転：1 / 19	好転：0 / 19
	不変：6 / 19	不変：9 / 19	不変：12 / 19
	減少：10 / 19	悪化：9 / 19	悪化：7 / 19
全体	▲ 32.4	▲ 38.2	▲ 35.3
	増加：4 / 34	好転：1 / 34	好転：0 / 34
	不変：15 / 34	不変：19 / 34	不変：22 / 34
	減少：15 / 34	悪化：14 / 34	悪化：12 / 34

情報連絡員報告 (令和7年2月)



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製 造 業	食料品	食料品製造業 (団地)	2月度商況は昨年並。電気・ガス代の値上がりが見られ高傾向。ガソリン類も全国一の高値。収益面では厳しいものがある。先行きに懸念がある。
		酒類製造業	微増というところ。各イベントでは日本酒ファンで盛況である。行楽シーズンの期待。輸出はやや持ち直し。
	繊維工業	帆布製品製造業	原材料の高騰について、販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。3月から防災加工製品の値上げがあり、厳しい状況である。
	木材・木製品	木製品素材生産業	2月期は降雪等により出材量は減少しており、年間の全体量も昨年と比べ1割程度は減少するのではないと思われる。丸太価格については、製材品の動きが依然として鈍い状況である。丸太価格も一部のヒノキについては引き合いもあるものの、価格への反動は小さく全体的には横ばいで推移している状況である。3月となり年度末となるが、大きな変動は見込めない。
		一般製材業	原材料価格等の上昇により、採算は悪化傾向にある。
		建具製造業	公共工事、個人住宅共に仕事が少なかった。昨年の夏頃より仕事量が少ないのが続いている。
	紙・紙加工品	機械すき紙製造業	紙製品全体として、販売金額及び生産量が5カ月連続で昨年同月比を上回った。また、今月は販売量も前年を上回った。また、衛生用紙のトイレットペーパーは、先月に続き販売量を含めて動きが良い。
		手すき紙製造業	良い時もあれば悪い時もあり、変動状況が続いており予測が難しい。今月は、前年度と同じく横ばいで、まだまだ厳しい状況は変わらない。
	印刷	印刷業	11月・12月・1月と3ヵ月連続売上減、操業度低下だったが、当月はなんとか昨年対比を維持した。県内外の需要共に好調な企業と低調な企業の差が顕著に出ている感じだが、3月度は例年需要のピーク時となるので期待を込めたい。
	窯業・土石製品	生コンクリート製造業	2月度の全組合員の出荷量は、対前年比96.8%で前月より若干増加傾向であった。また、4月からの累計出荷量は、対前年比95.1%で前月と同様の傾向であった。地域的には、東部が増加傾向であるが、中部以西が減少しており、東高西低の状況を呈している。特に幡多地区の減少傾向が顕著である。
コンクリート製品		対前年同月比142.7%。今月は出荷量が多かったが、累計では例年より少ない状況である。	
鉄鋼・金属	刃物・金物類製造業	前半は良い数字も出ていたが、後半は出荷も少なく、前年を割ってしまった。受注はそこそこあっても、供給が伴わない状況が続いている。	
	金属製品製造業 (団地)	原材料費や人件費等のコスト高と需要の低迷などが影響し、収益改善が図れない事業所が複数ある。団地内各社の業況は足踏み状態が続いている。	
輸送機器	船舶製造・修理業	2月納期の契約がなかったため売上は減少している。仕事量は高操業で推移している。	
その他の製造業	装飾品・同関連品製造業	2月度の取引額は前年同月比91%となり、5ヵ月連続で前年を下回る結果となった。	
卸売業	各種商品卸売業 (団地)	外食業界において物価高の影響は大きく、安価をアピールしていた店などは特に苦しい状況にあるように感じる。また、全体的な価格設定の変更により、全体の消費が鈍くなっていることは間違いない。景気回復は感じられない。仕入商品・ガソリン代・電気代の値上げが続くものの、販売価格に転嫁できにくい。	
	青果卸売業	入荷状況 (前年同月比) について、野菜：数量94%・キロ単価120%、果実：数量81%・キロ単価119%。組合員合計では105%強はあるが、各組合員別に前年同期比を見ると、1月度以上に大きな差が生じている。	
	生鮮魚介卸売業	2月は今までにないくらい魚の入荷が少なかった。寒波の影響もあるが、いろんな経費が上がり魚価に乗ってきているので、他の市場に買い負けしている。カツオも例年になく不漁で大変厳しい。	
小売業	各種商品小売業 (土佐市)	2月はあまり動きもなく、状況は変わらない。商店街にも人通りが少なく、寂しい状況が続いている。	
	電気機械器具小売業	2月度は全商品平均で前年比102%、省エネタイプのエコキュートは前年比108%、白物家電は前年比98%、4K8Kテレビは前年比96%であった。	
	中古自動車小売業	ちばさんセンターにて中古車フェアを開催。前年同月開催と比べ、販売台数、来場者数ともに増加。高年式車の販売が集中している為、販売単価も前年と比べ高い。中古車市場相場も安定はしているものの高年式車両の流通量が少ないので、未だ高値を維持している。	
	ガソリンスタンド	2月末現在の激減緩和措置の補助額は12.5円/Lと減額となった。原油価格も値下がりしているが政府の激減緩和措置である補助金の減額により、実質仕切り価格は4週連続上昇しているにも関わらず、なぜか全国平均のガソリン販売価格は下落という不思議な現象が続いている。	
商店街	安芸市	2月9日(日)に「きさらぎ市」と「軽トラマルシェ」が同時開催された。「きさらぎ市」については、5年前に地元安芸高校の「総合的な学習の時間」という授業の中で、高校生が商店街の活性化を目的にイベントを企画・実施した。それ以降、コロナの影響もあり継続ができていなかったが、今年に入って安芸高校の生徒から「きさらぎ市」の復活をしようと申し出があり、商店街等の協力のもと復活が実現した。また、6回目となる「軽トラマルシェ」と同時開催により、2会場をつなぐスタンプラリーを実施し、両会場スタンプを集めると「ミツカン彩りゆず」(ミツカンから提供)がプレゼントされ、来場者数の相乗効果が見られた。さらには、両会場を歩き交う人の流れで、商店街に歩行者が増え、更なる賑わいを感じることが出来た。 2月12日(水)には、「地域にかがやくわがまち商店街表彰」の受賞による視察が行われ、中小企業庁をはじめ、県内外から多数の方にご参加頂いた。商店街を巡り、農福連携やこれまでの取り組みなどを紹介。意見交換会では、今回受賞のきっかけとなった『異業種・異分野・異世代の交流の場「たまりば」』を高く評価いただいた。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	商店街	高知市 駐車場状況について、利用台数は前年の98.6%(411台減)、料金収入は前年の98.7%(109千円減)。帯屋町筋商店街の販促として「帯屋町筋商店街第1回一店逸品ガイドブック」チラシを制作し、新聞折込(2/21)を実施した(チラシ内容は48参加店からお勧めする逸品の紹介・駐車場MAP・お買上サービス・イベント等)。大橋通り商店街では2月9日に「大菓子通り」を開催。開始時間の1時から多くの来街者が訪れ商店街全体が非常に賑わった。
	商店街	四万十市 一條神社と不破の八幡宮で節分の行事があった。東下町商店街の稲荷大祭も無事終了した。22日から春の菜の花まつりが入田ヤナギ林で始まった。
サービス業	旅館・ホテル	アフターコロナの需要増が落ち着き、対前年比で減収、減益になる見通し。3月以降の予約が低調かつ関西博の影響も懸念される。今年は「あんぱん」の追い風がある一方、インフレによる消費者の購買意欲の低下も見られる。経費は軒並み上昇しており、収益性の低下を想定。
	飲食店	売上高は10ヵ月連続で前年同月を下回った。当月の下げ幅は大きく前年度比で1割減。コロナ禍以前の売上比較は約8割～9割。集客は少なく県の西部で特に減少している。物価高により県内の消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚束ない。前年同月に比べ更に物価は高騰。光熱費・仕入価格・人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比：37%、全旅クーポン合算後同月対比：74%、令和6年度総売上前年対比：109%。今年度は新規組合員の獲得に繋がらなかったため、新年度は新たな戦略を検討、立案したい。
	情報サービス業	今月の売上は前年同月比で19.5%減となった。2月は稼働日数が少ないこともあり、例年減少傾向にあるが、直近5ヵ年で最も低調な結果となった。3月の復調に期待したいところである。年度末に向けた需要の動向を注視しつつ、顧客による補助金活用の促進や設備投資の拡大を引き続き支援し、3月の売上回復を目指したい。そのためにも、青年部を中心とした営業強化の取り組みを継続し、組合の共同受注事業の拡大を早急に軌道に乗せることが必要と考えられる。
	普通洗濯業	今年に入って需要の減少が続いている。特に点数減少が大きく、消費者の節約志向や寒さの影響、全国一のガソリン高のアナウンス効果など、現状と今後に危機感を募らせる経営者もいる。一方リネン業界は好調が続いている。インバウンドに加え、来月からの「あんぱん」効果にも期待が持てる。石油製品が多い資材価格は春から値上げが続く。
建設業	一般土木建築工事業	令和7年2月分の県下生コンクリート総出荷量は、前月比102.6%、前年同月比96.8%、前年同月累計比でも95.1%と依然低調。そのうち共同販売事業に係る出荷量は累計198173.82m ³ で全体の38.13%と低調で危機的レベルにある。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、骨材他あらゆるものが高騰しており、今年2月出荷分より一部値上げ実施となっており、県下全域で4月出荷分より値上げを目指している。高知市の組合再編は、1月16日の発足総会は一息破断となったが、反対している組合と袂を分かち3月17日に発足総会を開催予定としている模様。今回の組合再編については、そもそもの相互扶助という観点が抜け落ちており、問題があると思えない。
	電気工事業	組合員の施工する電力引込線工事量は、前年同月比94.7%となった。各地区で増減があったものの全体としては前年同様となった。
運輸業	一般貨物自動車運送業	1月同様2月も荷動きは鈍く、燃料価格も政府補助金の先細りの影響もあり、更なる値上げとなって組合員企業の経営を圧迫し続けている。組合事業も前年を若干下回った。
	一般乗用旅客自動車運送業	実働1日1車当りの前年同月比運送収入：107.5%、輸送回数：103.0%、実働率：48.8%。事業譲渡が2社程あり、車の数はほとんど変わらずである。現在27事業所600台の会員で運営しているが、25年前(平成10年頃)には40数社850台あり、運転者不足もなく何も不自由なかったことが懐かしく思い出される。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
卸売業	各種商品卸売業(団地)	インボイス制度を廃止するよう働きかけてほしい。
	生鮮魚介卸売業	大変です。
サービス業	飲食店	業界の売上はコロナ禍以前との比較で8～9割と厳しい。原材料や光熱費の高騰は収益を圧迫し、更にコロナ時の特別貸付の返済も始まり、経営が厳しい事業主も多い。そもそも物価高により県内の消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚束ない。経営状態の改善は急務、補助や助成等事業改善のサポートが必需。
	情報サービス業	補助金などの最新情報があれば教えて頂きたい。
	普通洗濯業	ガソリン含むエネルギー価格に補助を。
建設業	一般土木建築工事業	生コン業界に対して、他府県の単価引き上げの成功事例、手法についてご教授願いたい。